

ふかめよう! 道徳利 実践編

道徳教育と道徳科の評価

本資料は、県教育委員会がこれまでに作成した「はじめよう!道 徳科」、「ふかめよう!道徳科」、「はばたく群馬の指導プランII」を踏 まえ、以下の内容を紹介したものです。

- ・文部科学省・県教育委員会の指定地域における、指導と評価の一体化や大くくりなまとまりを踏まえた評価についての実践例
- ・道徳教育研究協議会で出された、各学校で行っている評価のための工夫例

道德教育

教育活動全体で見られた児童生徒の 道徳的な行為を評価

行動の記録

総合所見及び指導上参考となる諸事項

道徳科

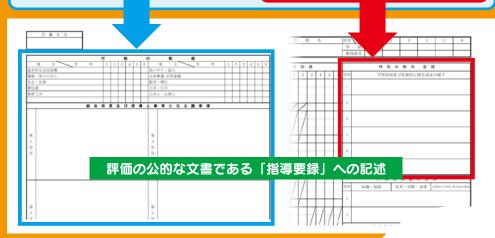
児童生徒の学習状況及び 道徳性に係る成長の様子を評価

各学校や児童生徒の実態に応 じて、指導と評価を行うことが 大切です。



群馬県 道徳科

検索



2年] @ 実践例① 「小学校

年間指導計画、学習指導要領等で指導内容や系統を確認

C 公正、公平、社会正義

「自分の好き嫌いにとらわれないで接すること。」

ねらいと評価の視点を決定

【 ね ら い 】 あい子さんとななみさんに対するゆかさんの態度の問題点について考えることを通して(主な学習活動)、自分の好き嫌い にとらわれず、誰に対しても分け隔てなく公平に接しようとする態度を養う。

あい子さんとななみさんに対するゆかさんの態度について考えることを通して、どんな相手にでも公平な態度や声かけを 【評価の視点】 する大切さについて、自分との関わりで、多面的・多角的に考えている。 (方法:発言、ワークシート)

視点としています。



邑楽町教育委員会(小学校)の例

主題名 こうへいな たいど

内容項目 С 公正、公平、社会正義

教材名 「ドッジボール」

過程 主な学習活動(○発問 ◎中心発問 ◇補助発問)

1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。

○良い言葉・悪い言葉と聞いて、どんな言葉が思い浮かびますか。 ○ドッジボールの時に出てくる良い言葉と悪い言葉は何でしょうか。

アンケート結果

▲ペアでの意見交流



2 教科書の教材文の範読を聞く。

- ○ゆかさんは、どうしてななみさんと同じチームになって「少しいやだな」と思ったのでしょう。
- S:仲良しの友達じゃないから。
- S:ななみさんは、運動が苦手だから。
- ◇この状況は、仲間はずれでしょうか。

┃ めあて:心のなかまはずれについて考えよう。

3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。

- ○ゆかさんは、あい子さんに「おしかったね。」と言い、ななみさんには「ちゃんとにげてくれないと、まけちゃうよ。」と 言いました。それぞれ言われた人の気持ちを考えましょう。
- ◎なぜかける言葉が違ってしまったのですか。
- S:仲良しの友達と仲良しじゃない友達だから。
- S:ゆかさんはたまたま当たっちゃったけれど、ななみさんは運動が苦手だから。
- S:心の中で仲間はずれをしてしまっているから。
- ◇これは誰のために言った言葉でしょうか。
- ◇アンケートで「気にしない」と答えた人は、どう思いますか。
- 〇まおさんが言った「すごかったよ。」という言葉を言われたら、どう思いますか。
- S: うれしい気持ちになる。
- ◇これは誰のために言った言葉でしょうか。

4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。

- 〇ゆかさんはどうしたら良かったでしょう。
- S:注意するならみんなにもすれば良かった
- S:ななみさんにも優しい言葉をかければ良かった。
- ◇そうするとどんな良いことがあるのかな。
- S:悲しい気持ちになる人がいなくなる。
- S:聞いている人も良い気持ちになる。

5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

- ○今日の道徳の授業の振り返りを書きましょう。
- S:悪い言葉を使うと嫌な気持ちになってしまうから、良い言葉をみんなに使いたい。
- S:誰が聞いても良い気持ちになる言葉を使いたい。
- S:心で仲間はずれをしていると悪い言葉を使ってしまうから、心の仲間はずれをしないようにしたい。

指導のポイント



アンケート結果の提示と活用

- ○自分のこととして課題に関心をもてるように、事前に 良い言葉と悪い言葉についてのアンケートをとり、結 果を提示する。
- ○ドッジボールの場面で、「ちゃんとにげてくれないと、ま けちゃうよ。」と言われたときの気持ちを聞いておき、 中心場面で活用する。

評価の視点に関連

教材文の提示

○内容を捉えやすくするため、教材文を読む前に登場人物 を挿絵で紹介しておき、範読後に、人物像を確認する。

○ゆかさんの「少しいやだな」という気持ちの理由を問 うことで、問題意識をもてるようにする。

ペアでの意見交流

○多面的・多角的に考えられるように、中心発問につい てペアで意見交流させる。相手を代えて、いろいろな ペアで交流させる。

評価の視点に関連

中心発問と補助発問

- ○中心発問では、言葉かけの違いの理由を考えること で、心の中の差別に気付けるようにする。
- ○「それは誰のためか」、「そうするとどうなるか」などの 補助発問をすることで、一人一人の考えを深められる ようにする。

評価の視点に関連

本時における学習状況の見取り

児童のワークシートの記述(例)

まおさんみたいによい言葉をつかうと、言われた人をえがお にして、自分もえがおになると思った。わたしもこれからは、 よい言葉をつかって友だちをえがおにしたい。

友達に良い言葉を使うことについて、 自分の生活に照らし合わせながら、そ のよさを考えていた。

評価の視点をもとに学習状況を 見取りますが、他にも児童のよさ があらわれた場面は、記録してお



毎時間の授業の記録や ワークシートの記述を蓄積

最近の授業では、登場人 物の立場に立つて考える ことができているな。で も、いろいろな人の立場 で考えることのできる児 童は、まだまだ少ないな。



次の授業では、役割演技 を取り入れて、いろいろ な人の立場で考えられる ように工夫してみよう。

大くくりなまとまりを踏まえた評価

毎時間の見取りを生かして授業を改善していくことにより、意図的・計画的に一人一人の よさを認める評価をすることができます。

実践例② 「小学校 4年

年間指導計画、学習指導要領等で指導内容や系統を確認

A 個性の伸長

「自分の特徴に気付き、長所を伸ばすこと。」

ねらいと評価の視点を決定

【 **ね ら い** 】 自分さがしをする「わたし」の行動や気持ちについて考えることを通して(<mark>主な学習活動</mark>)、人は成長することができるということに気付き、自分を伸ばしてい こうとする態度を養う。

【評価の視点】 主人公の行動や気持ちの変化を考えたり、長所についての考えをグループで交流したりすることで、今まで気付かなかった自分のよさや、短所を乗り越え ようとすることについて、自分との関わりで考えている。 (方法:発言、道徳ノート)

主題名 長所を伸ばす

個性の伸長

|「つくればいいでしょ」

過程 主な学習活動(○発問 ◎中心発問 ◇補助発問)

1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。

○自分の長所・短所はありますか。それはどこですか。

S:長所より短所がある人の方が多いな。 S:長所ってあまり見付からないな。

めあて:長所を見付けるために大切なことは何だろう。

Q自分の長所はありますか? ある 6人 ない 12人 O自分の短所はありますか? ある 12人 ない 6人

▲アンケート結果

2 教科書の教材文の範読を聞く。

S:主人公は自分に長所がないと思っているのだな。私と同じだな。

3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。

○友達の長所は何でしょう。

- S:歌が上手い。リコーダーが上手い。走るのが速い。
- ◇どうしてそれが長所だと思っているのでしょう。
- S:みんなより優れているから。
- ○「わたし」は、お母さんに「つくればいいでしょ」と言われて、どう感じているでしょう。
- S:何で、教えてくれないの。

開

終

- ○「わたし」は、どうして長距離の練習をやめなかったのでしょう。
- S:どんどんタイムが良くなってきて、うれしくなったから。
- S:すぐにやめたらいつもと変わらないから。

S: 愛子さんも頑張っているので、わたしも頑張れるかもしれないと思ったから。

- ◎「わたし」はお母さんに前に言われた「つくればいいでしょ」について、今度はどう思ったでしょう。
- S:お母さんが言っていたことは正しかった。
- S:長所は自分でつくることができる。
- ◇「わたし」の長所は、「わたし」が見付けた友達の長所と同じですか。
- ◇「わたし」のような長所が、自分にはあると思いますか。

グループでの▶ 意見交流



4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。

- ○長所を見付けるために大切なことは何だろう。
- S:自分の弱い所を直そうとする。
- S:友達と比べるのではなく、自分の良い所を見る。

5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

- ○「わたし」から学んだこと、感じたことについて書きましょう。
- S:人と比べなくても、自分の良い所はあるんだと思った。
- S: 苦手なことでも、努力したら得意になって、長所になることもあることが分かった。

指導のポイント



邑楽町教育委員会(小学校)の例

アンケート結果の提示

- ○自分のこととして課題に関心をもてるように、事前に 長所と短所についてのアンケートをとり、結果を提示
- ○アンケート結果を比較することで、長所より短所があ ると答える人が多いことから、長所が自分では見付け にくいことに気付かせ、問題意識をもてるようにする。
- ○主人公に自分を置き換えて考えられるように、主人公 の思いとアンケート結果を比較し、共通点を確認す

評価の視点に関連

グループでの意見交流

○多面的・多角的に考えを深めることができるように、 中心発問について、グループで意見交流させる。

評価の視点に関連

中心発問と補助発問

- ○中心発問では、長所をつくることに対する主人公の気 持ちの変化を考えられるように、母から言われた言葉 の意味をもう一度問う。
- 「わたし」の長所と 「わたし」が見付けた友達の長所を 比較させることで、長所に対する一人一人の考えを深 めさせる。
- ○自分自身との関わりで考えられるように、自身の内面 的な長所について考えさせる補助発問をする。

評価の視点に関連

本時における学習状況の見取り

児童の道徳ノートの記述と 教師の見取り(例)

【道徳ノートの記述】

わたしも今まであまり長所がないと思っていたけれど、これか らは長所をもっとつくりたいです。目標ややりたいことを見つ けていって、できることをもっとふやしていきたいです。

【教師の見取り】

長所と短所について、友達の意見も取り 入れながら、自分のこととして前向きに 考えていた。



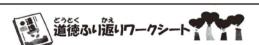
毎時間の授業の記録や道徳ノートの記述を蓄積します。 各学期末に、学期を振り返る時間を設定し、大くくりなまとまり を踏まえた評価に生かしました。

【道徳ノートの記述】

今まであまりきまりについて考えていなかっ た。これからは、きまりだからではなく、周り の人のことを考えてすごしたいです。

【教師の見取り】

きまりについての問題に対し、 悩みながらも一生懸命に自分 のこととして考えていた。



○一番心に残った授業はどれですか?

題名(つくればいいでしょ 7学期 自分の長所は自分でつくれるということを失いって、わ

たしも、自分の長所つく。てふやしたいと思ったからです 各学期を振り返るワークシート(例)

大くくりなまとまりを踏まえた評価

1学期の授業の様子や道徳ノート を見ると、どの授業でも自分のこ ととして捉え、考えることができ ているようだな。



【評価(例)】

いつも「自分だったら」という視点をもって考えることができ ました。特に、「つくればいいでしょ」という授業では、長所は つくることができることに気付き、自分の長所を増やしていき たいという気持ちをノートに書いていました。

実践例③ 「中学校 1年」



邑楽町教育委員会(中学校)の例

年間指導計画、学習指導要領等で指導内容や系統を確認

C **遵法精神、公徳心** 「法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を 大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。」



ねらいと評価の視点を決定

【 **ねらい**】 ごみ箱を増やすこと、減らすことのメリット・デメリットを話し合い、「誰もが幸せな社会」について考える活動を通して(主な<mark>学習活動</mark>)、法やきまりに対して、 公徳心に支えられた自律的な捉え方をすることの大切さに気付き、規律ある安定した社会の実現に努めようとする態度を養う。

【評価の視点】 ① ごみ箱に関する議論と中心発問について話し合うことを通して、様々な視点から考えを広げている。

② 規律ある安定した社会の実現に向け、自分自身との関わりの中で考えている。(方法:発言、班での様子、振り返りの記述)

はい 30人 いいえ 0人

ある 13人

Qポイ捨てをしたことはありますか?

主題名 誰もが気持ちよく 過ごせる社会を目指して

内容項目

C 遵法精神、公徳心

教材名

Qポイ捨てはいけないということを知っていますか?

ない 17人

「ごみ箱をもっと増やして」

指導のポイント

授業

過程 主な学習活動(○発問 ◎中心発問 ◇補助発問)

1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。

- ○写真を見て、どのようなことを考えましたか。
- S:ごみが散らかっている。ポイ捨ては良くないな。
- ○アンケート結果から、どのようなことを考えましたか。
- S:ポイ捨てはいけないと思うけれど、ついやってしまうこともあるな。

◇ポイ捨てで誰が困りますか?どうすればポイ捨てをなくして、みんなが気持ちよく、幸せに暮らせるのだろう?

めあて:きまりを守り、誰もが幸せな社会にするために何が大切だろう。

2 教科書の内容を確認する。

3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。

- ○ごみ箱を増やすことと減らすこと、それぞれのメリット・デメリットは何ですか?
- ◇それぞれの方法は、「誰にとって良い」「誰にとって困る」のでしょうか。
- S:ごみ箱が増えれば便利だけれど、その分回収が必要だし、ごみがあふれれば環境も悪くなる。
- S:ごみを持ち帰ればいいと思うけれど、ずつと持つているのは大変なこともある。
- ◎きまりを守り、誰もが幸せな社会にするために、大切なことは何だろう。
- S:いろいろな立場の人の気持ちを考えて生活する。
- S:-人一人が自分に恥のない(弱さに負けない)生き方をする。
- ◇それができなかったことはありますか。そのときどう思いましたか。
- ◇そうすることが、どのように「誰もが幸せな社会」につながるのですか。
- 4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、 学習のめあてについてもう一度考える。
- ○きまりを守り、誰もが幸せな社会にすることについて、自分なりの考えをまとめよう。



▲アンケート結果

▲グループでの意見交流 マトリクスで考えを整理

写直を提示

終

末

5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

- ○今までの自分や友達との話合いを振り返って、考えたことや感じたことをワークシートに書きましょう。
- S:きまりは自分を縛るものだと思っていたが、友達の意見を聞いて、きまりを守るよさに気付くことができた。
- S:クラスや部活、学校のきまりを守り、みんなにとっても自分にとっても過ごしやすい集団になるように、自分にできることをしていく。

アンケート結果と写真の提示

- ○身近な問題として課題に関心をもてるように、ごみ箱のごみがあふれている写真と、ごみがポイ捨てされている写真を提示する。
- ○アンケート結果を提示し、きまりは分かっているが、 守れないこともあるという人間の弱さを共有し、学習 する必要感や問題意識をもてるようにする。

評価の視点②に関連

グループでの意見交流

- ○ごみ箱を増やすこと、減らすことによるメリット・デメ リットという4つの視点について考えさせる。
- ○個人で付箋に書いた後、グループでシートにまとめながら、共通点・相違点について意見交流をさせる。
- ○「誰にとって良い」「誰にとって困る」の視点を示すこと で、めあての「誰もが」について考えを深めさせる。

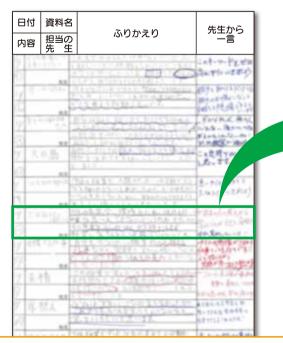
評価の視点①に関連

写真の提示と補助発問

- ○自分との関わりで深く考えられるように、身近な生活 の中の写真を提示する。
- ○中心発問に対する一人一人の考えを深めさせるために、道徳的価値を実現できたときやできなかったときの気持ちを問い返したり、「そうすることがどのように幸せな社会の実現につながるのか」を問い直したりする。

評価の視点①②に関連

本時における学習状況の見取り



毎時間の振り返りを書きためるワークシート

授業の最後の振り返りのみをポートフォリオ形式で書きためます。

授業者は、生徒の振り返りへのコメントを赤と青で記述します。 赤:一方的な見方から多面的・多角的な見方へと発展している内容 青:道徳的な価値の理解を自分自身との関わりの中で深めている内容

生徒の記述と教師のコメント(例)

到上の意見で、環境のため、他の人にラッチャ人へ考えから が東な思いとことはいというのかでたのででからなんだとよのか! その意見をいかけてかり持てはらず、それ大阪へいいつ!!

教師の見取り(例)

誰もが幸せな社会について、友達の意見を理解し、自分の考えを広げていた。



大くくりなまとまりを踏まえた評価

毎時間の振り返りを書きためたワークシートから、一定のまとまりで記述を確認したり、赤と青で書かれた 教師のコメントを比べたりして、生徒の学習状況や成長の様子を評価します。

教師の見取りの例

報酬の兄取りの例 第○回~○回の振り返りを見ると、友達の考えを取り入れながら、改めて自分の考えをもつことができるようになってきた。



各学校における評価の工夫例(小学校等道徳教育研究協議会より)

 $oxed{Q2}$ 児童の学習状況を把握するために どのような工夫をしていますか?

ここでは、小学校等道徳教育研究協議会の班別協議で出された、各学校で行っている評価のための工夫例を一部紹介します。

道徳科の評価は、妥当性、信頼性等を担保するためにも、学校として集める資料や評価方法を明確にしておくことや、評価の視点などについて、共通理解を図ることが大切です。

Q1 学校として組織的に取り組むために どのような工夫をしていますか?

各学年で作成した評価文や児童の 記述の見取りを持ち合い、校内で 見合う研修をしています。このこ とで、学年間の共通理解が図られ ました。

校内で共通の評価文例を作成し、 それを参考に担任が一人一人の児 童に合わせた文を作成していま す。

全校で統一した道徳ノートを持たせています。学年の実態に合わせて、直接書かせたり、ワークシートを貼らせたりして活用しています。

ローテーション授業をし、複数の 教員で多面的・多角的に児童の様子を見取るようにしています。

書くことが苦手な児童や発言が少ない児童の評価方法について、校内や学年で話し合い、共通理解を図りました。

ノートやワークシートの記述を蓄 精して評価に生かしています。

全体での発言が少ない児童は、ペアやグループでの発言を聞き取るようにしています。

学習状況を見取るため、名簿に評価の視点を書いた簡単なチェックシートを用意しています。

授業中に見取った学習状況は、座席表に記録するようにしています。

見取りができていない児童がいる 場合、活躍できる場を授業で意図 的に設定し、その様子を評価しま す。

小学校1年生の最初は、書くことが難しいため、ハートに色を塗ったり、心情円盤で表現したりできるようにしています。

児童の考えを板書し、ネームプレートを貼ります。授業後に板書を写真で撮って、個々の児童のよさを記録しています。

Q3 大くくりなまとまりで評価するときに どのような工夫をしていますか?

通知表では、学期ごとに評価の視点を決めて記述しています。

例) 1学期:学習状況

2学期:多面的·多角的

通知表は保護者に分かりやすいよう、「大くくりな学習状況」+「突出した授業の様子」を意識して書いています。要録は、大くくりな成長の様子を記述するようにしています。

ワークシートを蓄積するとともに、学期の終わりには児童が振り返って自己評価をする時間を設定しています。